

光葉同窓会メールマガジン



＜2026 年 8 月・9 月合併号＞

230 号 2026. 07. 31 配信

大学は7月で前期試験が終わり、夏休みに入りました。後期授業は10月からです。半世紀近く前になりますが、大学1年生のときの学年歴は今と異なっていて、8月から夏休みに入るものの、前期の試験が9月の後半に行われたように記憶しています。夏休みを思い切り楽しみたいのに、頭の隅に英語とドイツ語の試験があり、モヤモヤとしていました。次の年からは7月中に試験が終わるようになり、本当に嬉しかったことを覚えています。

大人にもシルバーウィークが来ます。お身体に気を付けて楽しくお過ごしください。

(常任委員 秋山久美子)

■同窓会だより

◇光葉同窓会奨学金授与を行いました

7月10日(金)、金尾朗学長と関係の学科長にご臨席いただき、光葉緑奨学金授与式を行いました。緑奨学金とは、創立者夫人の人見緑先生を顕彰し、北海道、四国、九州、沖縄県出身者で勉学、人格形成に励んでいる在学生に授与する奨学金です。

今年度は、北海道2名、愛媛県1名、大分県2名、長崎県1名、福岡県3名、宮崎県2名、鹿児島県2名、計13名に授与されました。



◇ワーキングネットワークイベントを開催

7月11日(土) 学園本部館大会議室において、フェムケア講座『今日がいちばん若い日を作る』(講師 ベリーダンス教室 フェミニン主宰の mimi 氏)を開催しました。まず、スタートは mimi 氏と2人のダンサーによるオープニングダンスで、mimi 氏のしなやかな手足の動きや音楽に、ベリーダンスが初めての人もそうでない人も、皆が魅了されました。



フェムケアとは「フェミニン+ケア」の略語です。経済産業省の試算では、女性特有の健康課題を放置することによる“経済損失”は年間およそ3.4兆円とされています。今回の講座の前半は、女性の体と心を整えるためには、何を知り、いつから、何をすれば良いかを学びました。「健康と美容、どちらも大切にできていますか？」という問い掛けから始まり、自分の体のことを

もっと知ること、守ること、労わることの大切さについて教えていただきました。

後半は、簡単なストレッチ、正しい姿勢を全員で実践しました。ベリーダンスの衣装のひとつである「ヒップスカーフ」を腰に巻き、音楽に合わせて手足を動かすと、まるで全員がダンスをしているようで



した。「からだを動かし、楽しみながら参加できました」「さっそく自宅で体操をしてみます」と参加者の感想はとても好評でした。「フェムケアは、いつからはじめてもいい、今日がいちばん若い日です」と mimi 氏から応援の言葉をいただき、セミナーを終了しました。(ワーキングネットワーク 磯邊 まみか)

◇2027 年度光葉同窓会推薦入学試験のご案内

【出願期間】11月2日(月)～11月6日(金)

【問い合わせ先】昭和女子大学アドミッションセンター [TEL:03-3411-5154](tel:03-3411-5154)

○同窓生の推薦者2名が見つからない場合、同窓会へメールでご連絡ください。

【光葉同窓会受付期間】2026年10月1日(木)～10月9日(金)

E-mail:dousoukai@swu.ac.jp

◇生涯学習 《講演会》のご案内

【テーマ】「今さら聞けない 健康食品の基本のキ」 食品表示を読み解くリテラシー

【講師】昭和女子大学 管理栄養学科教授 調所 勝弘先生

【日時】2026年10月17日(土) 13:00～14:30 (受付 12:30～)

【場所】昭和女子大学学園本部館3階 中会議室

【参加対象者】同窓会会員とその家族

【参加費】無料 【定員】40名 【申込〆切】10月9日(金)

【申込方法】件名に「生涯学習講演会」、本文に①氏名 ②卒年 ③卒学科 ④連絡先

(日中連絡可能な携帯番号)を記載の上、光葉同窓会事務局に FAX または Mail でお申込みください。申込み後、受付完了の返信を同窓会事務局からお送りします。

【問い合わせ先】昭和女子大学光葉同窓会事務局(下記記載)



◇支部会開催のお知らせ

9月5日(土) 福島県支部会

9月27日(日) 山形県支部会

10月3日(土) 富山県支部会

10月4日(日) 佐賀県支部会／渋谷・目黒支部会

10月10日(土) 鹿児島県支部会

10月11日(日) 愛知県支部会

10月24日(土) 埼玉県支部会／神奈川県支部会／世田谷支部会

10月25日(日) 熊本県支部会／東京都多摩東支部会／兵庫県支部会

◇夏季休業のお知らせ

同窓会室 8月1日(土)～16日(日)

大学一斉休業 8月7日(金)～14日(金)

光葉同窓会事務局 E-mail: dousoukai@swu.ac.jp

TEL: 03-3421-7713 FAX: 03-3411-4066





栗田 陽子さん（福井県支部第4代目支部長・書家）

1968年 日本文学科卒

「歳月人を待たず」

戦後80年、私も80歳。1968年、昭和女子大学日本文学科を卒業しました。60年前の日文は、そうそうたる教授の方々がおられました。“星の王子さま”の翻訳者、内藤濯先生の教授室へ伺ったこと、犬山城主だった成瀬正勝先生他、教科書を著作された多くの先生方の授業等々、今思えば勿体ない限りでした。



卒業式2ヶ月後に結婚し、その後1男1女を授かりました。子ども達は海外赴任先のインドネシア、ブラジルのサンパウロの幼稚園、日本人学校に4年半通いました。その間「サンパウロ PTA 誌」=写真左=に、また帰国後には「福井新聞」、「婦人公論」に、投稿した記事が載りました。

サンパウロでは、第二次世界大戦終結から29年を経てフィリピン・ルバング島から帰還され、ブラジルで牧場を経営していた小野田寛郎さんとの交流もありました。日本人学校が熱望されていた小野田さんの講演も、実現できました。

大学で日本文学を学んだ私は、幼いころから書くことや読むことが好きでした。思えば書道を小学校から70年以上続け、日文でも書道を選択し、生涯の糧として生きることになりました。日文での恩師、津金孝邦先生、福井大学で教授もされた杉本長雲先生、京都で活躍され、文化功労者でもある古谷蒼韻先生にご指導いただきました。その間、「読売書法展」で特選を頂き、大阪で授賞式、東京での再度授賞式では、壇上で津金先生に久しぶりにお目にかかりました。

流派の枠を超えて、純粋な芸術としての書を追求する、現代書道の伝統ある全国組織である太玄会書展「太玄賞」の授賞は、2011年3月11日の東日本大震災の翌日でした。会場の東京・上野は、しいーんと静まり返って、一度も見たこともない、経験したこともない、人のいない東京でした。授賞式は、華美なパーティは取り止め、式のみでした。私は受賞者代表として謝辞を述べました。前日に被災された東北の皆様への思いを込めた巻紙を、涙ながらに読み上げたことが昨日の事のように思い出されます。

夫の両親祖父母と同居、子供達の育児で大変でしたが、母校の教えの“良妻賢母”を目指して、奮闘しました。娘も私と同じ日文を卒業し、医師の夫の関係上、中国、韓国、フィリピン、ベトナムなど東南アジアで看護師を目指している留学生に、日本語を教えました。

そして2005年から4年間、私は福井県支部第4代目支部長をさせて頂きました。その間寄贈した、福井県木の「松」は、学園本部館北側に植えられています。

福井県は2年前に北陸新幹線が敦賀まで延伸され、現在、東京から3時間弱で乗り換えなしで行き来できるようになりました。交通の便がよくなりましたので、さらに母校とのつながりもできたらと願っています。

平均寿命に近づきつつある現在、「悔いのない人生のために、明日はない、今日を最後だと思って毎日を生きたい」と願って過ごしています。【End】